

獨協埼玉高等学校 令和5年度 第三者評価

実施日:5月29日

1. 自らの考えで判断できる人物育成の教育。

授業に関する施策はある程度、功を奏しているようなので、この方向で継続（正直なところ生徒の反応や成績向上などが私らでは判断できない）していいのであろう。

獨協コースの広報活動について。論文を見せる広報活動は既に実施しているが、一般の人が見ても「凄い」という感想で終わってしまうし、何より詳細が理解できないだろう。せっかく大学の教授に向けてのプレゼンテーションを実施しているのだから、その方達の見解として、これらの論文が大学生レベルであることを示してはどうか。

2. 質の高い授業展開と大学進学情報の共有化。

クロームブックなどのICT化に関しては、今後敢えて強調したり課題案件として取り上げたりする必要はないのでは、と考えている。既に必然の時代になっているのだから。

大学情報の共有化は、回覧や掲示、WEBによる共有化とは別に、日頃教員同士で情報交換する機会を増加した方が効果的である。大学情報は相当複雑化している上、頻繁に変わるので、基本知識を全教員で共有する機会があってもいい。若い先生が増えているのであれば、研修会などを実施することも検討する必要があるようだ。

3. 登下校マナー。

数年経っても変化がこの場では見えづらい問題である。この問題は、生徒の「マナー」ひいては「他人を思う心」なので、今後もこの件に言及するなら基本的な道徳教育を検討するか、生徒が受け身でなく自分たちで考える機会を設けないと、今後も進展しないかもしれない。やや幼稚に見える対応だが、人間の基本を教えることは学校として重要であるし、基本年齢の低下が、社会現象となっている現状を踏まえると、獨協埼玉だけの問題ではないともいえる。いずれにしても、中学同様に継続的且つ粘り強い指導を期待する。

4. 安全面の徹底。

特に問題なし。